

～The first experience in the USA～

七重小学校 上 村 美紀子

1. Food

「えっ?! 機内食で、吉野家の牛丼?!・・・空とぶ牛丼だ!!」

10月1日、函館を出発し、翌日、成田空港からボストンのジェネラル・エドワード・ローレンス・ローガン国際空港へと向かう機内のことだった。生まれて初めての吉野家の牛丼がこの旅での最初の初体験でした。



JAL 機内食空飛ぶ牛丼

13時間の長旅を経てローガン空港へ到着。パスポートのチェックに1時間半かかり、やっと荷物を受け取りの場所まで到達しました。やっと到着ロビーへ出られると思ったその時、あれっ?! 「渡会さん、どこに連れて行かれちゃうの??」連れて行かれたまま、戻らない渡会さんとベンを残して、とりあえず到着ロビーへ移動し、満面の笑顔のトムさんとジュンコさんの歓迎を受けました。しかし、それからの約2時間、二人を待ち続け、疲れとともにお腹がすいてきたその時、DUNKIN' DONUTSの一口サイズのドーナッツ Munchkinsは我々の救世主となったのでした。



ピザハウス Sorrento's

ソレントスのピザはイタリア風! アメリカの映画に出てくるような大きなサイズ。しかも丸い形の Pastaがトッピングされていました。

ホストファミリーの家での夕食はできたてのキッシュにサラダ。翌日の朝食は、日本で私が作った雑穀クルミ入りパンに、パンプキンバター (TRADER JOE'S オリジナル商品) とラズベリージャムを塗っていただきました。パンプキンバターはシナモンが効いており、カボチャ好きの私はこれをお土産に買っていこうと決めました。パンプキンバターはハロウィンの時期限定商品のようでした。

コンコードに来て初めての雨の日曜日、300年近く前から続く老舗のホテル The Colonial Inn で Nick とハンバーガーとクラムチャウダーをいただきました。ハンバーガーは日本の三倍。しかし、パンはとてもフカフカで、口の中でとろけるような感じ。それにハンバーグは肉らしいミンチでした。

人生でこれまで開けたことのないほどの大きな口を開けてほおばりました。翌日ボストンの街に案内されました。QUINCY MARKETでロブスターロールと生ガキを食べました。初ロブスターです。生ガキは知内産のものを毎年食べていました。知内産と比べると小ぶりでしたが、日本と違ったソースをつけていただきました。どちらもとてもおいしくいただきました。



小さいけどおいしい生ガキ

ロブスターロール

2. Willard Elementary School

コンコードでの3日目はWillard Elementary Schoolで過ごしました。ウィラード小学校は新しい学校でした。校内に入ると正面にはカフェテリアがあります。廊下も教室も、自然光をたくさん取り入れられる造りになっています。始業時刻は9時です。全校放送でスタートです。教室内の国旗にむかい、手を胸の前に起き、何か学校教育目標のようなものを唱和しています。それが終わると校長先生から今日の誕生日の児童が校長室に呼び出されます。どうも校長先生からプレゼントがもらえるようでした。

1時間目は体育、体育の先生が待つ体育館へ移動します。授業内容はローラーブレードでした。縄跳び、柔軟体操、筋力をつける運動を経て、本日の運動に入りました。ヘルメットやプロテクター、ローラーブレードを装着するのに時間のかかる子がいても、教師は必要以上に手助けをすることなく、自分の力で準備をさせていました。また、運動のレベルも



5年生の教室



手作りカード

個人差が大きく開いていましたが、各々の子どもが自分の能力なりに楽しみながら運動できていました。体育館は小規模校並の大きさで、七重小学校の3分の1ほどでした。ウィラードでは学年で体育をやることはないそうです。常に学級単位の体育なので、広い体育館は必要ないとのことでした。集会が必要な場合は文化センターのようなすり鉢状のホールがあるのでそちらで実施するとのことでした。私の歓迎セレモニーでは、生花にカードが添えられていました。「ようこそ」と言葉を添えて、手渡ししてくれました。私のために費やした時間と気持ちに心が温まりました。

休み時間には、おやつを食べます。日本においては考えられない大きな違

いです。先生たちも、カフェテリアの隣に先生用の部屋があって、そこで軽食を食べられるようになっていました。なんとも自由な感じだなあと思いました。音楽の授業はブラスとオーケストラに分かれます。ブラスは木管、金管、打楽器での音楽、オーケストラは弦楽器です。それぞれ専任の教師がいて、担任は教室で、音楽をとっていない児童と一緒に過ごしています。

4時間目は、私のプレゼンによる授業でした。日本の文化について小学校行事を中心に紹介したものです。予定の時間は45分。途中、折り紙で「鯉」を折って、焼き鳥用の串に貼り付け「鯉のぼり」を作りました。英語での授業を成功させ一安心でした。

授業終了後、児童も私たちもランチの時間です。日本と違い、児童はカフェテリアでの昼食です。我々は別室で数人の先生方と豪華なランチをいただきました。そこで私の教師生活について説明し交流しました。教室に戻ってみると、スペリングテストを行っていました。日本では書き取りテストです。それが終わると国語の授業でした。この授業も日本とは大きく異なるものでした。まず、クラスが3つに分かれているようです。能力別のグループです。リーディングに大きな差があるとのことで、小グループに分かれて一つのグループが先生の机の周りに集まって、学習が始まります。残りのグループの児童はホワイトボードに記してある、本日終えなければならない学習内容を見て、自習します。算数の問題や社会の地図作り、国語のプリント学習などがありました。それぞれに好きな順序で進めています。ほとんどの児童が集中して自習していますが、中にはぼんやりしている児童もいます。また、教室には担任のほかにもう一人先生がおり、個別に児童を呼んで指導・援助をしていました。

このクラスには配慮の必要な児童もいるとのことでしたが、担任の小さな声に集中できる素晴らしい子供達ばかりでした。午後3時、全ての授業が終わり簡単な教室整理の後、下校になります。日本から持ってきた寿司ストラップを子どもたちにプレゼントしました。ウィラード小学校での一日はとても緊張しましたが、これまでの努力が報われる有意義な一日でした。

3. Culture

コンコードについてすぐに、First Parish in Concordに案内され、ユニタリアン・ユニヴァーサリスト (Unitarian Universalist) について教えてもらいました。ユニテリアン・ユニバーサリズムの本拠地はボストンにあり、その考え方は自由に思想・信仰を決める事ができるのだ



First Parish in Concord

そうです。これにより宗教的多元性、多文化の伝統を尊重し同じ教会内でも複数の信仰や活動を認められているのだそうです。簡単に言うと、唯一の神を信じるのではなく、一人ひとりの信じるものが、神であるというものだそうです。函館の本町にも教会がありますが、中には入ったことがありませんでした。とても古い建物で驚いたと同時に大切に思っているということに感心しました。古い時計にパイプオルガン。また、地域のコミュニティセンターのような働きもしているように思いました。数日後、この教会でパーティが企画され、ボランティアの方たちが調理をしたり、会場準備をしたり、参加者へのお土産を準備したりしていました。荷物運びを少しだけ手伝わせていただきました。

Concord Free Public Library で Patricia A. Clifford さんからコンコードの町政について教えていただきました。その内容は、日本の町政との大きな違いを示していました。それは、町の中のあらゆることは、住んでいる人々によって決まるということでした。CCHS の広い部屋に集まり、あらゆる



Concord Free Public Library

ることが町民の討議によって決まるのだそうです。その決まったことにそって、役所に職員が仕事をすることでした。また、Selectman と呼ばれる町長のような方が 5 人いるそうです。Town Manager はその Selectman によって選出されるのだそうです。「町のことは、町の人々が責任を持って決める」というシステムは決まるまでに時間はかかりそうですが、人任せにしない町政という感じがしました。町政に積極的に参加することで、自分の住む町への愛着と責任が生まれるのではないかと、私はもっと町のことに積極的にかかわらなくてはならないのでは…と考えさせられました。

最後に、この訪問団に参加する機会を与えてくれた七飯町と、無事に旅を終えられるように配慮して下さった全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。